



## K&Gのお話

Kとは、秋になってまだまだ活発な蚊のことです。朝夕とかなり冷え込んできましたが、昼間に油断していると、校長室の廊下側の窓から蚊が侵入してきて、刺されています。秋は、蚊の活動が活発になります。それは、蚊の活動に適した気温が25度～30度であることと、冬になる前に卵を多く産むために満腹になるまで血を吸おうとしているからです。蚊は水分を好むので、除菌シートや汗拭きシートで拭うだけでも効果があるとか。それでも刺されたら冷やしたりかゆみ止めを塗ったりするのが一番で、私がよくやる爪でバツェンを付けるのは、皮膚が細菌感染を起こす可能性があるため、NGだそうです。



Gとは、世の人々に嫌がられているゴキブリのことです。実は、邪馬台国の可能性があるとされている、奈良の纏向(まきむく)遺跡で、古墳時代前期の土の層から、チャバネゴキブリの体の一部が見つかったそうです。このチャバネゴキブリは体調、1～1.5cmで、今回の発見例は世界最古\*の可能性があると云います。この発見により世界中に生息するゴキブリの起源をさぐる手掛かりになると云います。

人間には嫌われている両者ですが、Kの幼虫のボウフラは水中の有機物の分解に貢献し、成虫は植物の花粉の媒介も行います。Gは森林などで、枯れ葉や死体を食べてくれることで、その後の分解が早く進み、結果的に植物が成長を助けています。このように地球規模で言えば、人間とK&Gどちらが地球環境に良い影響を与えているかを考えると、K&Gに軍配が上がりそうです。

※世界最古のゴキブリは、3億年以上も前から存在しているそうです

## 帯西校歌の秘密 その③

校歌の3番には、「師友」つまり、先生や友達のことがうたっています。歌詞の「紫のやさしき姿」は、校歌の1番の「紫」についてうたわれています。「むらさき」は本校の校花でもあります。「天がける 鷹の雄心」は、空を飛ぶ意思が強くて何事にも屈しない鷹の勇ましい心という意味で、校歌の2番にある菊池家の信義をつらぬく姿勢を象徴したものだと思います。そして、3番の歌詞にある「帯山の西の教えを求めゆくわが師よ友よ」という言葉は、他校では見られません。これは「教え」、つまり道を求めていくのは、子供たちだけではなく、先生も求めていくのですよという、まさに師弟同行(していどうぎょう)の心をうたっているのです。昨年度の「わくわく通信3号」に書いているのは、「師は弟子に教えながら、自らより深いところで学びを得ることが必要となってきます。師と弟子が共に学び合っていく姿が、これからの学校づくりには欠かせないのだと思います。『学ぶ』の語源は『真似ぶ(まねぶ)』といわれます。学ぶということは真似るということであり、弟子は師から『真似び』、師は弟子に教えながら、自らより深く学び続けていく必要があるのです。子供たちには、この帯山西小学校での学びが、いつか大人になったときに誇らしく思ってもらえるように、我々も子供と共に学び続けたいと思います。そのためにも『師弟同行』に終わりはありません。」ということです。そんな素敵な校歌の意味を噛みしめながらこれからも子供たちと共に歩み続けたいと思います。